

平成23年度 個別施策管理シート

個別施策10

政策	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策	02 ロジスティクスハブ機能の強化		
個別施策	10 臨海部道路ネットワークを充実する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	港運、荷主、トラック事業者
	サービスの対象物(何を)	名古屋港周辺の幹線道路、臨港道路
	意図(どういった状態にしたいのか)	渋滞が緩和され、円滑に貨物輸送ができる
内容	名古屋港周辺の幹線道路では、西部地区における交通量の増加により、慢性的な交通混雑が発生しています。また、臨港道路においては、コンテナターミナルを利用する大型トレーラーの渋滞が顕著となっています。このため、周辺の幹線道路ネットワークの構築や港内における交通混雑の緩和により円滑に貨物輸送ができるようにしていきます。	

目標	西部地区における主要交差点での渋滞緩和を図ります。	目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による 貨物量の増減
----	---------------------------	--

成果指標	実績等	年					目標 H24	指標の説明(式)
		H19	H20	H21	H22			
桜木大橋北交差点の渋滞長 (北向き左折)	実績	m	590	-	420	250	250	・目標値は1回の青信号の 通行量から設定 ・達成率は19年度値を 基準とした目標値に対 する解消率
	達成率	%	-	-	50	100		
桜木大橋北交差点の渋滞長 (東向き直進)	実績	m	420	-	280	20	210	
	達成率	%	-	-	67	190		
楠1交差点の渋滞長(北向き 右折)	実績	m	550	-	150	200	120	
	達成率	%	-	-	93	81		

2. Do(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課	事務事業名 (コード)	事務事業の概要	主な成果指標 又は活動指標 (単位)	成果・事業費(千円・人件費込)			目標値 (年度)	H22年度事業に基づく評価結果(及びH23年度評価時点までの状況変化も反映)					
					H21	H22	H23		H22年度 末までの 状況 ※1	H23年度以降の取組の方向性			備考(判断の理由・目標年次の変更等)	
					実績 決算額	実績 決算見込額	目標 予算額			事務事業 ※2	成果 ※3	コスト ※4		
○	(企画調整室) 計画担当	道路ネットワーク計画の 策定(港湾計画の策定) (1021001)	交通のボトルネックの解消や、コンテナ貨物の増加による港湾関連車両の 分散化など、既存施設の有効活用を含めた効率的な道路ネットワーク体系 の調査・検討を行います。	策定進捗率(累計) (%)	30	34	54	100 (H25)	遅れ	継続	↗	➡	・物流の環境変化に対応した港湾のマスタープランである港湾計画の改訂 に向けて着実に準備する必要があるため。 ・目標年度を23年度から25年度に変更しました。	
	(企画調整室) 計画担当	広域幹線道路網整備の 支援(1021002)	関係機関と連携し、国への要望活動に参加します。	要望道路の事業化 (件)	0	0		- 継続事業	完了					
	(企画調整室) 事業担当	飛島ふ頭道路(改良)整 備事業(1021003)	円滑な車両走行を確保するとともに飛島ふ頭へのアクセスの定時性を確保 するため、臨港道路を整備します。	事業進捗率(%)				100 (H20)	完了					
◎	(企画調整室) 事業担当	鍋田ふ頭道路(進入)整 備事業(1021004)	鍋田ふ頭における物流の効率化を図るため、臨港道路を整備します。 整備内容:道路整備(延長2.3km、幅員3.5m×4車線)	事業進捗率(累計) (%)	38.2	44.3	50.2	100 (H27)	順調	継続	↗	➡	貨物量の増加に伴い交通量が増加しており、引き続きコスト削減に 留意しながら事業を進めるため。	
				施策コスト (事業費合計)	416,917	480,708	461,120							

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

注)目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則としてH24年度の中間目標として設定しています。

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

H23年度以降の取組の方向性	平成23年度取組の方向性の判断の理由(本組合財政収支への影響の考察を含む※5)		
取組の 方向性	成果※3	コスト※4	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑な貨物輸送の実現に向けて成果を拡大としますが、コストは厳しい財政状況を踏まえ、維持とします。</li> </ul>
	↗	➡	

今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済の回復や新たな物流施設の増設に伴い貨物量が増加することから、本港のサービス水準を向上させるため、円滑な貨物輸送が可能となるよう速やかな実現を目指します。</li> <li>道路ネットワーク計画の港湾計画の策定に関しては、目標年次を新たに25年度に設定し、準備を進めていきます。</li> <li>鍋田ふ頭道路(進入)は、I期線の供用に引き続きII期線の整備に取り組みます。</li> </ul>
----------------------------	--

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

平成22年度行政評価のACTION(取組の方向性)を踏まえて取り組んだ内容と現状における課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)については、国の港湾行政の指針となる基本方針が策定されるなど作業環境が整ってきたため、順次対応していく必要があります。</li> <li>円滑な貨物輸送の実現を目指し、鍋田ふ頭道路(進入)整備は、暫定2車線供用のI期線事業が24年度完成に向けて順調に進捗しています。</li> </ul>
構成事務事業の適正性(事務事業の構成内容が妥当かどうか。問題がある場合は具体的な修正案を記入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務事業の構成内容は概ね適正です。</li> </ul>

